

は、典型的な分泌顆粒を有する B, A 細胞が認められた。④グルコース負荷試験では、分離直後のインスリン分泌能低下は 1 週間の培養で改善し、また 40 日間の培養中のインスリンの分泌が保たれた。

〔考察〕成熟ブタ膵内分泌細胞径は、ヒトリンパ球径に類似しており、MPRM を用いた一度の遠心操作で、膵内分泌細胞は明瞭に分離され安定した細胞数が得られた。また、膵内分泌細胞の構成は膵島におけるそれと類似しており、超微細構造も保たれていた。

〔結論〕MPRM を用いた膵内分泌細胞の分離法は、簡便で安定した細胞数が得られ、その形態・機能とも良好であった。

9. D-ペニシラミンによる p-ANCA 産生誘導の可能性—急速進行性腎炎の発症を通して—

(膠原病リウマチ痛風センター)

都外川新・寺井千尋・
樋上謙士・赤真秀人・立石睦人・
谷口敦夫・原まさ子・柏崎禎夫

〔目的〕急速進行性腎炎 (RPGN) では p-ANCA が高率に陽性になり、その発症要因の一つと考えられている。D-ペニシラミン (DP) を治療薬として使用する慢性関節リウマチ (RA)、強皮症 (PSS)、ウィルソン病などではその病因・病態が異なるにもかかわらず、共通して RPGN の合併が散見されている。我々は、DP による p-ANCA 産生誘導の可能性を考え、これを検証した。

〔対象・方法〕DP を内服している RA および PSS 患者 (DP 内服は既往も含めた) を対象とし、p-ANCA の測定は myeloperoxidase を主要抗原とする ELISA 法を用いた。

〔結果〕RPGN 発症例は全例 DP を内服していた。p-ANCA 陽性は、DP を内服している症例に多く、DP と p-ANCA の有意な相関が示された。

〔考察〕DP は、何らかの機序を介して p-ANCA の産生を誘導し、RPGN の発症に関係していると考えられた。また、DP 内服症例では、p-ANCA を測定することが RPGN の発症予防につながることも期待される。

10. 広範な全身真菌感染症と耐糖能悪化より Cushing syndrome を発見したインスリン非依存型糖尿病 (NIDDM) の 1 例

(¹糖尿病センター、²内分泌疾患総合医療センター内科)

佐藤 賢¹・中神朋子¹・宇治原典子¹・

高橋千恵子¹・岩本安彦¹・大森安恵¹・
成瀬光栄²・出村 博²

糖尿病のコントロールが不良の際、重篤な感染症を合併しやすい。我々は広範な真菌感染症の治療中、副腎過形成により Cushing syndrome の合併を認めた NIDDM を経験したので報告する。症例は 73 歳女性。60 歳より高血圧症。1986 年 (66 歳) 糖尿病を発見され 1990 年より経口剤を開始した。1994 年 7 月当院初診、入院しインスリン治療を開始したが退院後コントロールは再び悪化した。1995 年 9 月頃より下半身に掻痒を伴う皮疹が広がり、10 月に第 2 回入院。入院時下腿、陰部、臀部、右側腹部に鱗屑、痂皮を伴う境界明瞭な紅斑を認め、下腿の筋力低下も認めた。胸部 X 線では右上肺野に空洞を伴った境界明瞭な陰影、腰椎 X 線では圧迫骨折を認めた。皮膚の糸状菌症、脛カンジダ症、さらに気管支洗浄液から胞子を認め、皮膚、爪、脛、肺の真菌症と診断した。顔貌、体型、広範な真菌感染、インスリン必要量の増加などから Cushing syndrome を疑い施行したデキサメサゾン抑制試験では 8mg でも抑制されなかった。ACTH テスト、CRF テストではコルチゾールの反応があり、メトピロンテスト (1,500 mg) では ACTH の反応があった。腹部 CT で両副腎皮質に数個の結節を、トルコ鞍 MRI で empty sella を、副腎シンチで両副腎に取り込みを認めた。以上より ACTH 依存性両側性副腎過形成と診断した。入院中 3 回の TIA 様症状を起こすなど全身状態が悪く手術の適応はないと考えられ、メトピロン 1,500mg により保存的療法を行っている。

11. 東京女子医大神経精神科におけるコンサルテーション・リエゾン活動の実態

(精神医学) 大和 央・加茂登志子・
福永貴子・中平 進・川本恭子・
加茂康二・吉増克實・田村敦子

1994 年 7 月 1 日から 1995 年 6 月 30 日までの 1 年間における神経精神科の初診件数は 1,605 件であったが、このうち身体科からの依頼は、本院内だけで 463 件、関連病院の身体科からの依頼 30 件を含めると、他科医師を介して当科を初診した例は、総初診数の約 30% にあたる 493 件に達した。この 493 件の受診形態は、当科リエゾン班による往診が 185 件 (38%)、通常の外來受診が 308 件 (62%) であり、45 例が当科に入院している。最も依頼件数の多かったのは脳神経センター 119 件であり、内分泌センター 59 件、糖尿病センター 43 件、心臓血圧研究所 23 件と続いている。当院の診療体制の特色